

「広報文化財コラム」一宮の歴史特集②

平成28年6月号



一宮町の歴史特集
「一宮町の文化財②」
加納久朗（二八八六〜一九六三）

「一宮町ゆかりの人々」第2回は「加納久朗」を紹介します。

加納久朗は明治19年（1886年）、最後の一宮藩主で元一宮町長の加納久宜の次男として生まれまし
た。久宜の長男の久元は早世してい
たため、実質的な加納家嫡子でした。

久朗は東京帝国大学（現東京大学）卒業後、明治45年（1912年）に横浜正金銀行（現三菱東京UFJ銀行の前身とされる）に入社し、満州やニューヨーク支店勤務ののち、昭和9年（1934年）にロンドン支店の支店長に就任しました。その後国際決済銀行の理事・副議長、横浜正金銀行の取締役を歴任しました。
久朗の交友関係は広く、吉田茂



▲写真：一宮町教育委員会所蔵

や近衛文麿、木戸幸一（最後の内大臣）など政財界に幅広い人脈を持つていました。

終戦後、久朗は日本住宅公団総裁として戦後の住宅問題に積極的に取り組みました。昭和33年（1958年）には東京湾の埋め立て開発を提唱（「東京湾埋立による新東京建設提案」）しました。

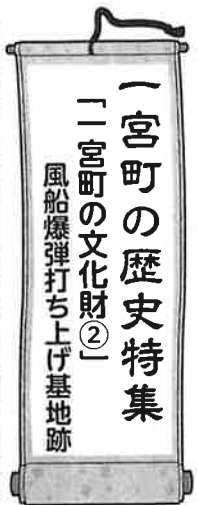
昭和37年（1962年）、久朗は千葉県知事に就任しました。道路・住宅の整備などに尽力し、また、「移動県庁」など斬新な政策を次々と打ち出しました。

しかし、在職中の昭和38年（1963年）2月、志半ばで病に倒れ亡くなりました。享年76歳、知事在職期間はわずか111日でした。

久朗に関する資料はスクラップブックや日記として残されており、それらは平成11年（1999年）に加納家より町に寄贈され、「加納家史料」として保管されています。平成17年（2005年）には目録が『加納家史料目録』として刊行されました。数多くの久朗の功績はこれらの資料からつかがい知ることが出来ます。父久宜と同様に久朗は日本の発展に大きく貢献した人物だったのです。

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416

平成28年7月号



一宮町の歴史特集
「一宮町の文化財②」
風船爆弾打ち上げ基地跡

「一宮町の文化財」第2回は「風船爆弾打ち上げ基地跡」を紹介します。

昭和19年（1944年）11月、一宮海岸から大きな気球がアメリカへ向けて放球されました。「風船爆弾」です。一宮を含め、福島県いわき市勿来、茨城県北茨城市大津の計3ヶ所から打ち上げられました。この計画は「ふ号作戦」と呼ばれ秘密裏に陸軍登戸研究所（現神奈川県川崎市）で開発が行なわれました。

「風船爆弾」は和紙とコンニャク糊で作った気球に水素を詰め、爆弾をぶら下げて、ジェット気流に乗せてアメリカ本土を攻撃する日本陸軍の秘密兵器でした。翌年

春までに各基地から合計約9300発が放球され、アメリカ本土に到達したのは約280発と言われていますが、正確な数はわかっていません。

一宮では打ち上げのために上総一ノ宮駅から海岸まで仮設の鉄道が敷かれ、資材が輸送されました。

昭和20年5月5日、アメリカ・オレゴン州ブライでピクニック中の民間人がこの風船爆弾の不発弾に触れ6人の方が亡くなりました。風船爆弾によるアメリカ本土の唯一の被害でした。

昭和51年（1976年）8月、時の向井十郎町長はこの悲劇を知り、犠牲者の霊を弔う手紙をアメリカのフォード大統領、ストラウブ・オレゴン州知事に送りました。その40日後、オレゴン州知事から哀悼の気持ちを感謝する返書が届きました。

現在、基地跡には石碑が建つのみでかつての面影はありません。しかし、私達はこの戦争の歴史を語り継いでいかなければならないのです。



▲所在地：市川学園一宮学舎に隣接

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416